

令和7年12月4日(木)

# 公共図書館における 知的障害者への読書サポート

生駒市図書館

高田叶子

岩谷和子(読書サポートボランティア)

社会福祉法人いこま福祉会かざぐるま

大谷健太郎(施設長)

久保和至

宮下大輝(利用者)

## 本日の流れ

- 生駒市図書館からの報告

1. 生駒市および生駒市図書館について
2. 生駒市図書館の読書サポート事業について
3. サービスのこれまで
4. 今後の展望
5. ボランティアの思い

- 社会福祉法人いこま福祉会からの報告

- 社会福祉法人いこま福祉会について
- 図書館の活動に参加にあたっての理由と取り組みについて
- 利用者の思い
- 施設職員の思い

# 1. 生駒市および生駒市図書館について

## 生駒市について



- \* 人口約116,000人
- \* 奈良県の北西端に位置する自然豊かな市。  
大阪や奈良の中心部へのアクセスが便利な立地。
- \* 東西約8.0キロメートル、南北約15.0キロメートルと南北に細長い形
- \* 同規模自治体での図書館の比較（『図書館年鑑2025』より）

蔵書冊数 16位 約646,000冊

貸出数 5位 約1,149,000点

予約件数 8位 180,678件

👉 市民の高い読書意識

## 生駒市図書館



- \* 図書館・室は市内に3館・2室
- \* 管理形態 直営
- \* 各館(室)に司書を配置
  - \* 職員数 25名(臨時職員を除く再任用含む)  
うち司書 19名

## 2. 生駒市図書館の 読書サポート事業について

## 取組の概要

- 毎月に1度の館内整理日(休館日)に1時間、図書館を知的障害者の団体に貸し切り状態でご利用いただく。

- 1時間の内訳※1

- 40分 1対1の代読 or 自由に閲覧
- 15分 読み聞かせ
- 5分 貸し出し手続き等

- 各回の参加者(おおよそ)※1

- 利用者18名(代読利用8名 閲覧利用10名)
- 施設職員 8名
- ボランティア 8名
- 図書館職員 2名



※1 社会福祉法人いこま福祉社会がぐるまの場合

## 代読について

- 「聞き手(当事者)が読んでほしい本を代わりにわかりやすく読む」
- 基本1対1で横並びに座る。
- ペアになって本を選ぶことからスタート。
- 読む本は、自分で決める。自分で決められるようにお手伝いをする。
- コミュニケーションをとりながら読書の楽しみを共有。

### 👉 絵本の読み聞かせとは大きく異なるもの



## 利用状況

- 市内の8つの団体が月に1度、館内整理日(休館日)に利用

	本館	南館	北館	駅前	鹿ノ台	複数館利用
代読を含む利用	1	1				
資料閲覧のみの利用	2	1	1	1		1

- そのほか、依頼に応じて隨時施設へ赴き、出張代読を実施



南分館の様子



施設への出張代読の様子

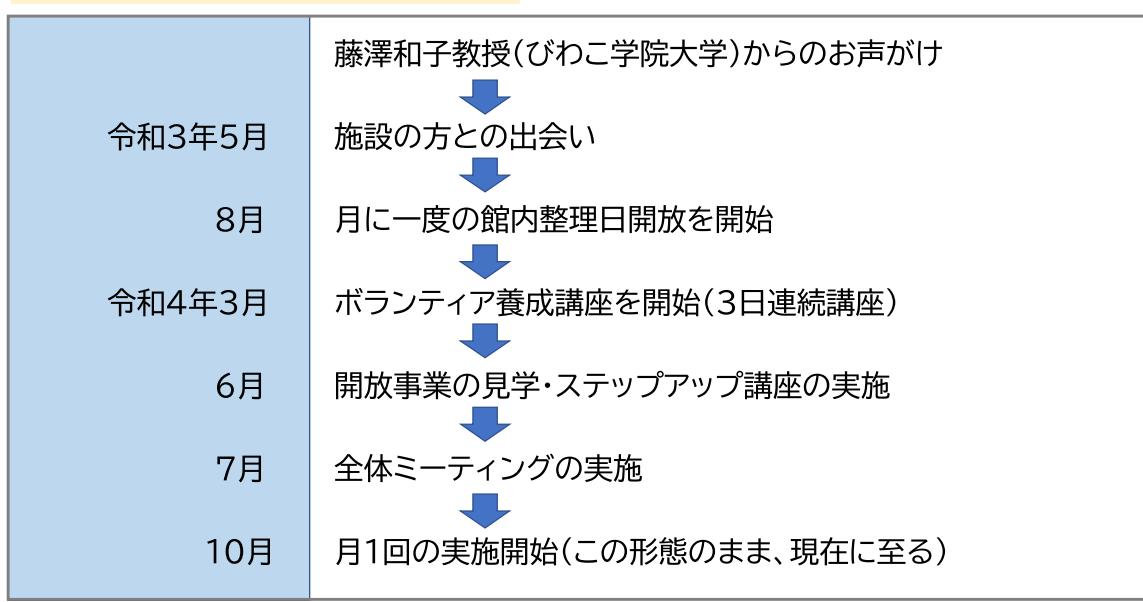
## 取組の様子



誰もが居場所と出番があるまちに

### 3. サービスのこれまで

#### 開始までの流れ



## ボランティアの受け入れ

- 知的障がい者のための読書サポート講座
  - 藤澤和子教授によるプロデュース
- 休館日開放および読み聞かせの様子の見学  
代読のステップアップ講習会(座学・実践)
- 社会福祉法人いこま福祉社会かざぐるまによる  
レクチャー
- 全体ミーティングの実施



## 知的障がい者支援のための 読書サポート講座



だれもが利用できる開かれた図書館をめざして

知的障がい者のために、「読み聞かせ」「代読」などのサービスを行うための実践方法を学んでみませんか。

### 1日目

2022年3月19日(土)

①13:30~15:00

◦講師:山田 友香先生△

「図書館の障がい者サービスと知的障がい者」

②15:15~16:45

◦講師:藤澤 和子先生△

「知的障がい者にとってわかりやすい本と初期覚醒資料」

### 2日目

2022年3月26日(土)

③13:30~15:00

◦講師:左古 久代先生△

「知的障がい者との対話の方法」

④15:15~16:45

◦講師:釣島 芽子先生△

「知的障がい者への本の紹介と読み聞かせ(実習付)」

### 3日目

2022年3月28日(月)

⑤13:30~15:00

◦講師:吉田くすほみ先生△

「知的障がい者への代読」

⑥15:15~16:45

「知的障がい者への代読の実習」

### 会場:生駒市図書会館

生駒市北町238番地

①~④ 図書会館 市民ホール

⑤⑥ 生駒市蔵書室(図書会館内)

◎ 対象:継続してボランティアを行う意思のある方で全3日間参加できる方

申込は、こちらのHPから→  
又は、直接電話かカウンターへ



◎問い合わせ:生駒市図書館

Tel 0743-75-5000

Fax 0743-73-3600

## 取り組みを始めてみて

- スタート時の思い
- 実際に実施した感想
- 図書館の変化
  - 本の分類サイン、同線などの見直し・改良  
→ 一般の利用者さんにとっても利便性が向上  
より開かれた図書館に
  - 通常開館日の生活介護施設の団体利用  
→ 職員の意識の変化
  - 庁内機関との連携の幅の広がり

## 4. 今後の展望

### 今後の展望

- ・館内整理日以外の日/施設利用をしていない方への  
読書サポートサービスの提供  
→まずは曜日を決めて実施できないか検討中
- ・新たなボランティアさんの育成  
→来年度、講座を実施予定
- ・新たな取り組みのアイデアを大切に  
例えば…  
ご本人からの提案での  
利用者による読み聞かせの実施



👉 共生社会の実現に対して示すことができる図書館の可能性の一つ

## 5. ボランティアからみた 読書サポート活動

### ボランティアの思い

- ・参加を決めた際のこと
- ・参加して思うこと
- ・今後について

かざぐるまの実践報告

## 図書館訪問 3年間の活動について

社会福祉法人いこま福祉社会かざぐるま 施設長 大谷健太郎  
久保和至



# 社会福祉法人いこま福祉会 法人理念

「障害のある方々に、地域生活において必要とするサービスを総合的に提供・支援することにより、次のような地域生活の実現を目指す」

○障がいがあっても、またその程度が重くても、地域の中で地域の一員として暮らすことができる当たり前の社会。

○障がいのあるなしに関わらず、地域社会を構成し、社会を支える一人として、自尊心と自立心を持って暮らすことのできる社会。

## 社会福祉法人いこま福祉会

障がいのある方々に地域生活において必要とするサービスを総合的に提供・支援することにより、障がいがあっても地域の一員として暮らすことが当たり前の社会を目指しています。



## 社会福祉法人いこま福祉会の取り組み

### 「働く」

知的に障がいのある112名の利用者が法人内の事業所で日中の活動を送られています。ひとりひとりのペースや持っている力を発揮してもらいながら、やりがいと達成感、できたことへの喜びを日々感じながら取り組んでいます。



### 「暮らす」

市内に5か所のグループホームと20床の福祉ホームがあり、メンバーがそれぞれの暮らしを営んでいます。高齢化の課題にも向き合い、ひとりひとりが健康に安心して暮らせる場を提供しています。



## 「踏み出す」

生駒市の知的障がいのある方々の相談を受ける生活支援センターや一人暮らし体験、緊急時の受け入れ、一人暮らしの生活相談などを担う地域生活支援拠点事業に取り組んでいます。



## 「憩う」

メンバーの余暇の時間を大切に、想いをうまく表現できない方がどうしたら楽しんでもらえるかを考えて余暇の企画や時にゆっくりと過ごす時間、場所を提供しています。



## 「支え合う」

地域の一員として地域に支えてもらえばかりではなく、私たちが地域の役割を担って支えになることを目指して様々な地域公益事業に取り組んでいます。



## 図書館の活動に参加、協力しようと思った理由

- ・かざぐるでは、開かれた施設として地域の中にとけ込み  
互いに支え合って生きていくことを目指している。

@大きく2つあります。まず一つは、障がい者を知ってもらう機会になると思いました。そして2つ目は、障がいを持つ人たちの生活がより豊かなものになるために、図書館という場所が活用できるのではないかと思いました。

## 代読の実習でメンバーが参加した時の工夫

@現在読書サポートとして活動していただいているサポートの方々に、  
まず予め参加するメンバーの障害特性を伝えておくことは大切なことでした。  
例えば多動の人がじっとしてられない場合は、無理に戻ってもらおうとせず、  
戻ってくるまで待ってもらうことや、聴覚過敏の人には、大きな声や音が聞  
こえない配慮をお願いすることや、逆に難聴の人にはゆっくりとはっきりと  
特に声のボリュームには配慮をお願いするなどがあり、さらに自閉症のスペ  
クトラムの人には独特なこだわりやコミュニケーションの難しさへの配慮を  
お願いするなどがありました。

@パートナーを決める時には、異性の人との関わりが難しい人もいるのでそれ  
も事前に伝えて、対応を考えなくてはなりません。

@参加後には、職員がヒヤリ・ハットのミーティングをおこない、次回への  
注意点・配慮点を確認し合っています。

## さまざまな障害の特性

- ・障害特性の多様性

その人に合わせた関わりをもつことで互いが尊重できる。

@例えば血液型でその人の性格を判断するような事とは違い、同じ障害名であってもそれぞれの人にそれぞれの理由や特性があります。アスペルガーの人はコミュニケーションを取ることが苦手、ADHDの人は空気を読めないとよく言われますが、皆自分で我慢したり、人に合わされています。自閉症の人は、視覚、聴覚、嗅覚、触覚が過敏な人が多く、ルーティンなどのこだわり行動もありますが、しんどさを我慢したり、わかってもらえない辛さを抱えています。それは一人一人皆違っています。私たちは、それぞれの個性を知り、それらに合った関わりを持つことで、お互いが尊重できると思います。

## 本人の思い

@利用者のお一人から「自分も読み聞かせをやってみたい！」との声がありました。  
ここにいる宮下様です。

宮下様から自己紹介～

【Q & A】

- 本を読むことは好きですか？
- どんな本が好きですか？
- 本は一人で読みますか？
- 初めて図書館に行くよ！と聞いた時はどんな気持ちでしたか？
- 読書サポーターさんに本を読んでもらうのは、どんな気持ちですか？
- 図書館に行くのは楽しいですか？

## 【図書館訪問 参加メンバーのアンケート】

### 読書についてのアンケート

調査対象は 11人

○本を読むことは好きですか？

好き 7人	好きではない 3人	その他 1人
----------	--------------	-----------

○どんな本が好きですか？

- 答え・野球、アイドル雑誌、ガイドブック、絵本、電車、ウルトラマン、動物  
・食べ物。

○本は一人で読みますか？誰かと一緒に読みますか？

一人で 5人	誰かと 6人	その他 0人
-----------	-----------	-----------

○誰かと一緒に読むと答えた人は、いつもは誰と読みますか？

- 答え・お母さん  
・読書サポーター（分からぬことを教えてくれる）  
・かざぐるまやグループホーム職員

### 図書館訪問についてのアンケート

○初めて図書館に行くよ！と聞いた時は、どんな気持ちでしたか？

- 答え・場所は知っていた。何をするのかわからなかった  
・本を読んだり、借りたりすることは知らなかつた  
・本を読めると思った・本を借りて家で読めるのが楽しみだった  
・パソコンでインターネットを見たいと思った。

○読書サポーターさんに本を読んでもらうのは、どんな気持ちですか？

- 答え・楽しみ・男の人がいたらしいと思う  
・初めての人は緊張する・サポーターとの話が面白い  
・読みたい本と一緒に探してくれる・高い所の本を取ってくれるので安心  
・読み聞かせはいつも違う本を読んでくれる  
・面白そうな本を教えてくれる  
・「はっとう！」など関西弁や方言で言われても意味がわからない  
・ゆっくり丁寧に話してもらわないと聞き取りできない  
・絵本は子供に読むので、子ども扱いされている気がして嫌

○今、図書館に行くのは楽しいですか？

楽しい 10人	あまり楽しくない 1人	その他 0人
------------	----------------	-----------

○図書館が楽しいのは、どうしてですか？

- 答え・読みたい本を借りて休憩時間に読むことが楽しみ  
・職員との外出が楽しみ  
・アニメの本を読める  
・絵本を読んでもらえるのが楽しみ  
・いろんな本の中から好きな本を探すのが面白い  
・好きなサポーターに会えることが楽しみ  
・仕事の息抜きになる  
・ホームページに写真を載せてくれるので楽しみ

○図書館があまり楽しくないのは、どうしてですか？

- 答え・うるさい人がいる  
・不安になる

### 読み聞かせ体験の様子

本人が他の人にも読み聞かせをしてみたいと言われてから、段階を追って取り組みました。

ではここからは、宮下様が読み聞かせをするまでの本選びからどんな風に読んだらよいかを・・・など練習の様子をまた続けて動画でご覧いただきます。

### 動画 宮下様 取り組みの様子

### 動画 宮下様 取り組みの様子



動画 宮下様 取り組みの様子



動画 宮下様 取り組みの様子



動画 宮下様 取り組みの様子



動画 宮下様 取り組みの様子



動画 宮下様 取り組みの様子



動画 宮下様 取り組みの様子



動画 宮下様 取り組みの様子



## 図書館訪問への職員の思い

- 図書館に行くことで公共施設でのメンバーの様子やどんな本に興味があるのかなど、その人の内面をさらに知ることができ、日頃の支援に活かされると思う。
- 例えば動物の本に興味があれば、休憩時間などで、動物の話をしたり、DVDを見たり、その人のリラックスや知的好奇心を豊かにできることにも繋がり、私たち職員とのコミュニケーションにも役立っています。
- これから活動として、マンネリ化しない工夫、例えば「動物が好きだから動物の本」と決めつけずに他にも違う興味を探せるようにしてみたいと思っています。
- メンバー1人1人の自己選択、自己決定の機会を増やしていくなら・・・とそんなことを心がけていきたいです。

## 図書館事業について、良かったことや こうしてほしい要望、希望など

私達が（障がい者の人が）図書館におもむくだけでなく、参加しにくい人のために移動図書館が来てくれることもありました。



現在は特定日の利用となっていますが、将来的には、読書サポーターさんをはじめ、障がい者の人たちへの利用環境がさらに整い、健常者と同じようにいつまでも本を読みたい時に図書館が利用できることが私達の願いです。